

ご存知
ですか?

生活破壊

あれもこれも
切りすて



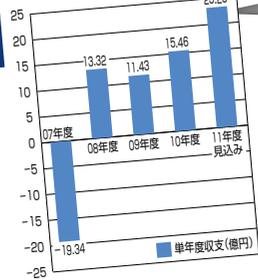
京みやこプラン 実施計画

京都市は今年3月、「はばたけ未来へ！京プラン実施計画」を発表しました。門川市長は就任以来、さまざまな分野で暮らし切りすてをすすめてきました。さらに市民生活全体を破壊する内容となっています。こんな計画の実行を許したら、大変です。



これまでも
暮らし切り
すての数々

国保料
黒字なのに
3年連続
値上げ



京都市の国保会計は4年連続で合計63億円の単年度黒字の見込み。なのに京都市は、国保料を3年連続値上げ。「負担は限界、引き下げて」の声に応えず、今年度も据え置きのまま。差し押さえも急増しています。

休日急病診療所

市内3カ所の休日急病診療所を廃止し、二条駅前の**1カ所に統合**

市立看護短期大学

「充実を検討」の公約に反し、存続を求める声を**無視して廃止**

教育リストラ

学校統廃合によるリストラなどで、教育予算を10年間で100億円削減。アルマイト食器やマンモス校放置など、**学校間格差は拡大**

民間保育園「プール制」

民間保育園の運営費に対する市の補助制度、「プール制」を改悪し、**補助金を5億円カット**

さらに
4年間で
250億円も削減

大行革計画

生活破壊目白押し

「京プラン実施計画」は、今後4年間、社会福祉関係費など事業の見直しで、毎年25億円ずつ削減額を増やし、合計250億円を捻出するとしています。2012年度予算では、「目標」を上回る28億円を削減。次のようなものが含まれています(今年度削減額が明らかにされているもの)。

項目・内容	今年度削減額
生活保護受給者の「就労支援の充実」と「適正な制度運営」で	1億3500万円
市有地に建設された民営の特別養護老人ホーム及びケアハウスの土地貸付料有料化	3600万円
緊急通報システム 一人暮らし高齢者の安全確保の事業を「利用者負担の公平化」と称して負担増。無料だったのに月額約1500円となる例も	900万円
民間社会福祉施設 産休等代替職員補助の廃止	1800万円
京都社会福祉協会助成の廃止	300万円
看護師確保対策事業の予算半減	700万円
市バス事業への繰出金削減	1億2600万円
地下鉄事業への繰出金削減	7600万円

その上こんな計画も

☒ 8万人に6億円の負担増。65歳以上を対象とした**個人市民税軽減措置の「見直し」**(=廃止を狙う)

☒ **合計33項目の削減を提案**
▶ 保育料、学童保育利用料、敬老乗車証の「検討」(=値上げ?)

▶ 市営保育所の民営化
▶ 洛西ふれあいの里宿泊施設の休廃止
▶ 学童う歯対策の「検討」(=廃止?)

☒ **関係者の声も聞かず、市有財産の切り売り**

▶ 元消防学校跡地(伏見区)、左京区役所跡地、木造市営住宅、障害者福祉協会跡地など
▶ 小学校跡地への「民間活力」導入も

☒ **消防職員80人を含む690人の職員削減**

▶ 初めて「部門別定員管理計画」を策定
▶ 10年間では1400人の職員削減=市民サービスを次々切りすて

条例つくって
取り立て強化

- ▶ 市税や公共料金の徴収率を上げるため、「債権管理条例」(仮称)の制定を検討
- ▶ 滞納に至る経過を考慮せず、情け容赦のない差し押えに道を開く

え!?!
これは大変!!



自治体の本来の役割は住民の暮らしを守ること。これではまるで「取り立て屋」

議員団の見解、「市民生活を破壊し、自治体を変質させる『京プラン実施計画』」の全文は、ホームページに掲載しています。ご意見、ご感想をお寄せください

